

2021年10月28日

各位

会社名 マクセル株式会社  
 代表者名 取締役社長 中村啓次  
 (コード番号: 6810 東証第一部)  
 問合せ先 経営戦略本部 広報・IR部  
 (TEL. 03-5715-7061)

### 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、本日公表の2022年3月期第2四半期の業績及等を勘案し、2021年4月28日に公表した2022年3月期(2021年4月1日~2022年3月31日)の通期連結業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせします。

#### 記

#### 1. 当期の連結業績予想数値の修正(2021年4月1日~2022年3月31日)

	売上高	営業利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2021年4月28日公表)	百万円 125,000	百万円 6,000	百万円 3,500	円 銭 70.77
今回修正予想(B)	136,500	9,500	5,700	115.25
増減額(B-A)	11,500	3,500	2,200	-
増減率(%)	9.2	58.3	62.9	-
(参考)前期実績 (2021年3月期)	139,055	3,806	△9,373	△189.51

#### 2. 修正の理由

本日付「2022年3月期第2四半期決算短信[日本基準](連結)」にて公表のとおり、2022年3月期第2四半期の業績は、売上高については、好調に推移した2021年3月期の反動による減収を予想していた民生用リチウムイオン電池が前年並みの実績となり、需要回復を見込んでいた自動車・半導体関連製品の販売が想定以上に好調であったことに加え、プロジェクターの欧米向け最終販売が計画以上となるなど、前回発表予想との比較で好調に推移しました。また、利益面については、上記の増収に伴う増益に加え、プロジェクターの事業改革に伴う一時的な効果や固定費削減を中心とした原価低減策の継続などにより、営業利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに前回発表予想を上回る実績となりました。

一方で、第3四半期以降は、堅調な販売が続いていた民生用リチウムイオン電池の減収が見込まれることに加え、半導体など部品・材料不足に伴う顧客の生産計画の見直しや、原材料費の高騰、物流面の停滞など、短期的に当社の業績に影響を与える状況が顕在化しつつあり、事業環境は厳しくなるものと考えています。

上記のとおり、第3四半期以降の業績は短期的に減速することが予想されますが、第2四半期までの実績も踏まえ、2022年3月期通期業績予想について、売上高、営業利益及び親会社株主に帰属する当期純利益ともに上方修正することとしたものです。

今後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響など、正確な見積もりが困難な状況となっていますが、今後、通期業績予想に影響を与える新たな事象が発生した場合は、直ちに公表する予定です。

【通期セグメント別業績予想】

単位：百万円

	売上高		営業利益	
	今回予想	前回予想	今回予想	前回予想
エネルギー	37,400	32,700	3,300	2,500
機能性部材料	27,300	26,200	2,000	1,500
光学・システム	40,000	34,000	3,300	400
ライフソリューション	31,800	32,100	900	1,600
合計	136,500	125,000	9,500	6,000

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上